



広島オーストリア協会

会報 No.32

平成21年4月30日発行
編集・発行／広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 秘書室
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4905



ウィーン市役所



広島オーストリア協会 会長
在広島オーストリア名誉領事

橋本宗利

会員の皆様にはひごろ広島オーストリア協会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会では、6月に総会、8月にピアホールの会、9月にクラシックコンサート、12月にクリスマス例会、3月に講演会と、当初計画通りの事業活動を行いました。特に12月のクリスマス例会には、最近では最多となる155名もの皆様にご参加いただき、ピアノのミニコンサートや、お楽しみ抽選会などが行なわれ、大盛況のうちに閉会することができました。また9月のクラシックコンサートではウィーンでも屈指のバイオリニスト、ベンヤミン・シュミットがクラシックの名曲やジャズティリストの楽曲を披露し、会場の聴衆を魅了しました。

さて今年は日本とオーストリアの外交樹立140周年に当たりますが、この記念の年に際し「日本オーストリア交流年2009」と銘打った文化・芸術・観光をはじめとした種々の交流事業が全国各地で実施されます。当協会に於いても通常の行事に加え、被爆した旧広島市役所の敷石（御影石）を使い、平和モニュメントをウィーン市内に建立するプロジェクトを、ウィーン埠日協会と進めているほか、その平和モニュメントの完成披露を兼ねた、オーストリア親善訪問の旅も検討する等、種々な展開を行う予定です。オーストリアと日本が相互理解を深め、両国の友好関係がさらに良好になるよう活動の充実に努めてまいります。そのためにも会員の皆様の積極的な行事への参加をお願い申しあげます。

総会報告



総会



- 日 時 平成20年6月9日(月)18:00 ~ 20:00
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島3階オーキッド
- 出席者 103名

広島オーストリア協会の通常総会を、ANA クラウンプラザホテル広島で開催しました。今回は来賓としてオーストリア大使館商務部のラーション商務参事官が臨席され、103名の皆様に参加いただきました。

はじめに当協会の橋本会長が「今年も例年通りの行事を計画しているが、多少趣向を加えて行くので期待して欲しい。」



平成20年度事業報告

平成20年度理事会・総会・懇親会

6月9日(月) ANAクラウンプラザホテル広島 (参加者: 103名)

ピアホールの会

8月25日(月) 広島アンデルセン (参加者: 108名)

ベンヤミン・シュミットプロジェクトfromウィーン公演

9月20日(土)広島ALSOKホール (入場者: 980名)

クリスマス例会

12月2日(火) リーガロイヤルホテル広島 (参加者: 155名)

講演会・懇親会

3月25日(水) 広島ホームテレビ (参加者: 76名)

平成21年度活動予定

6月9日(火)

平成21年度理事会・総会・懇親会

8月

ピアホールの会

9月

オーストリア親善訪問の旅

9月18日(金)

ウィーン交響楽団トロンボーン四重奏団公演(広島ALSOKホール)

12月

クリスマス例会

12月12日(土)

近藤嘉宏ピアノリサイタル(フェニックスホール)

3月

講演会・懇親会

平成20年度役員(平成20年6月9日現在)

役員	氏名	現職
会 長	橋 本 宗 利	株広島ホームテレビ社長
副会長	池 上 徹	マツダ株式会社ボレート業務推進本部本部長
〃	不 破 亨	湧永製薬株式会社副会長
〃	光 井 安 子	エリザベト音楽大学非常勤講師
専務理事	松 原 一 彦	株広島ホームテレビ総務局長
理 事	安 倍 寛 信	三菱商事(株)中国支社執行役員支社長 駐日オーストリア大使館一等書記官
〃	ゲオルグ・ベスティンガー	
〃	安 東 善 博	株中国放送社長
〃	川 口 英 二	株テレビ新広島取締役
〃	紙 元 秀 樹	財ひろしま国際センター専務理事
〃	熊 平 雅 人	株熊平製作所社長

役員	氏名	現職
理 事	後 藤 文 生	広島テレビ放送株式会長
〃	スティーブン・ロイドリーバー	(財)広島平和文化センター理事長
〃	菅 田 泰 介	福山商工会議所会頭
〃	長 松 勇	広島エフエム放送株式会長
〃	福 鳴 正 純	広島大学名誉教授
〃	木 下 享 介	(株)広島ホームテレビ専務
〃	望 月 成 二	エビス電工(株)社長
〃	野 坂 文 雄	(株)もみじ銀行頭取
〃	山 本 一 隆	(株)中国新聞社副社長
監 事	志 水 省 夫	(株)新日放社長
〃	荒 川 昌 治	中国電力(株)顧問

活動報告

ピアホールの会

- 日 時 平成20年8月25日(月)18:00 ~ 20:00
- 場 所 広島アンデルセン4階スカンジナビアホール
- 出席者 108名

昨年度は台風で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。

今回は新しい試みとしてオーストリアのデザート紹介を行ないました。オーストリアの3店舗で約一年半修行を積まれたアンデルセンの谷パティシエが「オーストリアのデザートは見た感じが華やかではないが、特に季節を大切にし、表面



は大胆に見えるけれど、中は繊細なケーキが多い。」と説明されました。また本場の作り方を忠実に再現したザッハトルテやアーモンドの焼き菓子マンデルレベックなどがテーブルに並べられました。

今回のステージではフラメンコグループ「ラス・フローレス」の皆さんのが、情熱的なフラメンコを披露されました。



クリスマス例会

- 日 時 平成20年12月2日(火)18:00 ~ 20:00
- 場 所 リーガロイヤルホテル広島4階クリスタルホール
- 出席者 155名

今回のクリスマス例会は155名もの皆様に出席いただき、大盛況となりました。

乾杯のご発声は当協会名誉会長の篠原康次郎様が「文化の香り高いオーストリアに思いをはせながら、皆様方、楽しくお過ごしいただきたい。」と挨拶されました。



お楽しみのミニコンサートではピアニストの大下祐子様が、クリスマスに因んだモーツアルト、シューベルト、ショパンなどの名曲を披露されました。

会の終盤では恒例のお楽しみ抽選会が行なわれました。法人会員の皆様に多数賞品をご提供いただいたおかげで、出席者の五人に一人が当選するなど、皆様に大変喜んでいただけました。



ウィーン舞踏会2009年

- 日 時 平成21年1月24日(土)18:00 ~ 26:00
- 場 所 ウェスティンホテル東京
- 出席者 約500名

日本オーストリア交流年2009の幕開けとなるイベント「ウィーン舞踏会2009」がウェスティンホテル東京で開催されました。秋篠宮殿下同妃殿下ご臨席のもと、各界の著名人をはじめ、当協会からも橋本会長ほか数名が参加されました。社交界



ベンヤミン・シュミットプロジェクトfromウィーン 公演を終えて

広島ホームテレビ事業部 佐藤直美

西日本から関東へと台風がゆっくり移動している最中、真夏を思わせる晴天に恵まれた会場は熱気に包まれていた。

ベンヤミン・シュミットという、今ウィーンを熱狂させている当代きってのヴァイオリニストの来日公演だ。いやが上にも期待は高まる。一行は17日に東京に到着。18日に銀座の王子ホールでの初日公演を終え、やや疲れた状態での広島入りだった。直前にギタリストの変更があり、こちらもやや不安を感じながらのお出迎えの中、ベンヤミンからの最初のリクエストは「横になれるソファのある部屋を貸して欲しい」だった。ALSOKホールには大きなソファのある部屋が無いため和室に案内すると、すかさず「GOOD!」とニコリ。体力が回復し、無事に公演を終えてくれるコトを祈るばかりだ。

代役のギタリスト、ディクス・シュネーベルガーは18才という若さに驚くが、物怖じせずにこやかに振る舞い、ムードメーカーという印象。一行は一休みしたあとステージに上がり、会場の音響を確認。満足そうな表情を見てくれ、早速音あわせに入る。開場ギリギリまでステージ上でリハーサルを続けていたが、皆の楽しげな様子に一安心。開場後、楽屋に戻ってからはさらにテンションが上がり、パーカッションの変わりに身体や机を叩いてリズムを取りながら、ラテンな音楽で盛り上がっている。コレは楽しかった。とても聞き応えのある第二ステージを見たような満足感があった。

しかし、本番はもっと凄かった。テクニック的なことは素人の私には解らないが、音色が心地よい。普段眠くなる無伴奏が表情豊かでナンとも艶やか。後半のスwinging jazzも踊り出したくなる軽快さで、舞台袖にいても会場の楽しそうな雰囲気が伝わってくる。

ベンヤミン・シュミットは父親（銀行の頭取）のジャズ好きに影響を受け、幼い頃からジャズを聞いて育ったそうだ。また、彼の持つヴァイオリンはスイスの財團から生涯貸与されているストラリヴァリウスで、それもストラリヴァリウスの中でも名器中の名器と言われる逸品だという。さぞかし大切



公演終了後のサイン会



に扱われているだろう、と思いきや楽屋にはくたびれたビニールのヴァイオリンケース！ 頑丈な皮のケースを想像していたからショッピング驚いた。そしてケースの中には無造作に家族の写真がたくさん貼り付けられていたのが印象深い。聞けば奥様もプロのピアニストだとか。小さな子どもがヴァイオリンを抱えている姿が何とも愛らしい。近い将来、シュミット家の音楽会というのも見られるかもしれない。

素晴らしい演奏に酔いしれアッと言う間に2時間の公演が終わった。会場にお越しの皆様はどのような感想をお持ちでしょうか？ 終演後に同行者とアレコレ意見を交わし会うのも楽しいですね。今年も素晴らしい演奏会を会員の皆様と楽しめたことを嬉しく思います。

今回は来場出来なかった方、次回をどうぞお楽しみに。また会場でお会いしましょう。



私の日本滞在の思い出(6年間の日本滞在印象記)



ゲオルグ・イッリッヒマン
ウィーン喫日協会会員
(前オーストリア航空日本・韓国担当総支配人)

日本！ 素晴らしい！ 素敵！ 刺激がいっぱい、日出する国、日本、活気あふれる国、未知の国。

2002年の年初めにオーストリア航空本社から日本・韓国担当総支配人の辞令をもらい、東京に赴任しました。その時点では東洋の日本について、何の知識もありませんでした。頭に浮んだものは、寿司、相撲、富士山などでした。ましてや日本人やその国の伝統、そして日常生活などについてはほとんど無知同然でした。

出張や旅行ではアジアに何度も足を運びましたが、残念ながら日本訪問のチャンスは全くありませんでした。地理的にも、ヨーロッパ各国とは遠く、当初、日本は自分にとって非常に刺激的なところではないかと想像を張りめぐらしていました。しかし、第一印象や企業経営など日本の社会は私の想像とは随分落差があり心理的なストレスは大変なものでした。

すべてが未知の世界、そんな中で最初の1日、そして1週間が過ぎ、徐々に新しい地での生活が始まりました。まず仕事面でのスタッフとのミーティングから旅行業者などの折衝などの業務も徐々に慣れてきました。そして、私生活でも地下鉄の利用から買い物に至るまで、毎日の生活にも少しずつ慣れて行きました。想像を絶する約3千万人の大都市圏をもつ大東京での生活も段々と楽しくなっていきました。

ヨーロッパの大都会と比較すると人々は大変親切で都市全体が大変きれいで清潔であるというのが第一印象でした。一般的にオーストリア人は新しいものに批判的な傾向がありますが、私も第一印象は良いがそのうちマイナス面にも感じてくるだろうと思っていました。しかし、6年間の日本滞在中この第一印象は変わることはありませんでした。また、勤務先は都心の日比谷、住まいは隅田川のほとりの中央区新

川でしたが、地下鉄でわずか8分で通勤できます。本当に信じられないようですが、公共交通機関のネットワークも時間も正確で全く素晴らしいものです。

私の滞在中、心がけたことは、まず最初に日本の日常生活、例えば買い物、スーパー・マーケット、郵便局、映画館、デパートなど必要なものに早く慣れること。第二に日本人の気質やカルチャーショックなどについて考慮しました。しかし私は滞在中に全くカルチャーショックなどは感じませんでした。そして、第三に日本の歴史を学ぶことで、現在の日本的情勢を把握することや、彼らの行動に納得することでした。この3点は私にとって大変重要なことでした。もちろん生活上で重要なものは言葉です。しかし言葉以上にその生活の知恵、人生哲学が歴史に反映しているように思います。

最初は日本に長く住んでいるオーストリア人や大使館などの人にアドバイスや協力を受けていましたが、時間が経過するとともに日本の人たちとの交流が多くなりました。そして、最初から最後まで親切にお世話をいただいた人は私が住んでいた隅田リバーサイド・タワーのフロントの男性で住いの問題から身の回りのことまでいろいろとお世話を頂きました。

勤務上ではオーストリア航空の日本人従業員は大変忠実で仕事面でも適切な対応など、世界中の支店でも最も優れたスタッフだと思います。他の取引先の人たちも大変真面目でかつユーモアいっぱいという印象を受けました。ヨーロッパ人から見れば、どちらかといえば、日本人は恥ずかしがり屋で積極性に欠けていると言われますが、実は完全主義で、いつも助け合い精神、その上時間は厳守です。

ある日、大変重要なミーティングのために私は出かけましたが、場所も時間も間違え、困っていたところへ、赤いバイクに乗った若い郵便配達の人がわざかな言葉を交わすまもなく、バイクに私を相乗りさせ、東京の街を横切って私の目的地まで連れて行ってくれたのです。そのお陰で私は重要な会議を無事終えることが出来ました。このエピソードでも日本の人たちの親切とやさしさをご理解いただけます。

また日本といえば首都圏だけではなく、北から南まで新幹線や航空路など交通輸送機関は大変よく発達しています。札幌から石垣島といえば北緯45度～北緯20度の間ですが、札幌の雪祭り、盛岡のオペラフェスティバル、長野のスキー、日光や鎌倉や京都の世界文化遺産、また名古屋や大阪、福岡や宮崎、沖縄や石垣島など風光明媚な各地を旅行しまし

た。また忘れられない印象は世界的に有名なトヨタ自動車の本社を訪れたことや平和都市の広島や長崎などを旅行したことです。

日本はアジア、オーストラリア、太平洋、南の国、特にハイなどへの玄関口でもあります。また韓国にも日本滞在中に仕事で40回以上訪問しました。多少日本とは違いがありますが、やはりアジア人の性格、誠実で自分たちの任務には責任を持ち、親しみやすい国民です。

最後になりましたが、日本滞在中には各方面から様々なご支援とご協力をいただき、お陰様で大変有意義な日本滞在を体験できましたこと心より感謝しています。ドーモ アリガトーゴザイマシタ!

2009年2月ウィーンにて



メッセージ

平和モニュメントについて



ペーター・モーザー
前駐日オーストリア大使
(2003年~2006年)

2005年9月、ウィーンで行われた広島オーストリア協会とウィーン壇日協会との友好提携調印式に、梅津オーストリア駐在日本大使と当時オーストリア駐日大使の私は立会いました。

2006年にシュッセル・オーストリア首相と日本の小泉首相との間で、2009年は国交樹立140周年を記念して「日本・オーストリア交流年2009」として公的行事のみでなく、両国間の市民交流促進も意義ある年にすることが決められました。

「日本・オーストリア交流年2009」では、文化・芸術、観光、青少年交流、科学技術、経済など幅広い分野における交流によって、日本とオーストリアの相互理解を深め、両国の結びつきを深めることを目指しています。この企画はオーストリア外務省、日本外務省及び両国大使館が密接に協力して企画・実施しています。

駐日オーストリア大使の任務を終え、ウィーンに帰国した2006年のときです。広島オーストリア協会から1945年8月6日に被爆した旧広島市役所庁舎の敷石（花崗岩）を「平和モニュメントとしてオーストリアに設置できないだろうか」という提案を受け、私はウィーン壇日協会と相談するとともにそのプロジェクト案に賛成しました。

そしてこの被爆石による「平和モニュメント」はウィーン市16区オッタークリングに設置すべきだと思いついたのです。「なぜ16区オッタークリング?」と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、私の日本在任中に広島平和記念資料館を訪れた時、原爆症のため、わずか12歳で亡くなつた佐々木サダコさんについての本「Sadako will leben」（日本語訳：サダコは生きたい）とドイツ語の本がガラスケ



ウィーン市16区役所

ースの中に展示されていました。その本はとても印象的でよく見ると、著者はオーストリアでは児童文学作家として大変有名なカール・ブルックナーでした。その本「サダコは生きたい」は多くの言語に翻訳され、世界中の子どもたちに愛読されてきました。そして、作家カール・ブルックナーはウィーン市16区オッタークリングで生れ育ち人生のほとんどをここで過ごしたそうです。

早速、16区のプロコップ区長に連絡を取り、「サダコ」と「ブルックナー」の係わりを話すと区長は大変共感してくださいました。



被爆石出発式（於平和記念公園）

もちろん区長もカール・ブルックナーの「サダコ」の本は良く知っているとのことでしたが、ブルックナー自身が16区の出身ということは知りませんでした。そして、今年の「日本・オーストリア交流年2009」の記念行事の一環としてサダコとブルックナー

を顕彰する「平和モニュメント」を16区へ設置することにその場で賛成して頂きました。

その「平和モニュメント」は16区（オッタークリング）区役所前の広場に設置予定です。完成後はこの区役所を訪れる市民はブルックナーとサダコの係わりと広島を思い出し、世界に平和を願い、市民一人一人がそのモニュメントを見上げることでしょう。

被爆石は3月初め、日本通運とオーストリア航空の協力を得て、無償で広島からウィーンへ運ばれました。そして奇しくもサダコとブルックナーの2人の命日は同じ10月25日ですが、今年の秋には「平和モニュメント」の除幕式が関係者の出席のもと盛大に行われることを祈念しています。



石を梱包する日本通運の皆さん

活動報告

講演会

- 日 時 平成21年3月25日(水)18:00 ~ 20:00
- 場 所 広島ホームテレビ
- 出席者 76名



アーノルド・アッカー
(オーストリア大使館商務部)

今回は講師にオーストリア大使館商務部・副商務参事官のアーノルド・アッカーさんをお迎えして「オーストリア日本交流年2009」というタイトルで講演していただきました。流暢な日本語で自己紹介から始まり、広島大学時代の思い出話や、1869年から始まった両国交流の流

れを説明されました。また商務部本来のお仕事である両国交流イベントの紹介や、オーストリアのワインやスィーツなどのPRをされました。懇親会では運営委員の小坂哲也さんが「アッカーさんの話を聞いて、30年以上前に留学したオーストリアのことが懐かしく思い出された。」と挨拶されました。



投稿をお待ちしています

- ①オーストリアの旅の思い出・生活・習慣・芸術のこと・オーストリアの友人の話・その他何でも結構です。会員の皆さまからの寄稿を募集します。お名前とご連絡先を明記して協会事務局へお送り下さい。原稿用紙400字詰3枚以内、関連する写真（あなたが一緒に写っていればなお結構）を1~2枚付けて下さい。ただし事務局で手直させていただくことがあります。掲載分にはささやかなプレゼントを送らせていただきます。（ご投稿の写真は後日お返しいたします）
- ②会員が主催するコンサートなど催し物の情報、会員の動向・消息・会報への提言・協会への希望も、できれば①と同様、お名前などご記入のうえお送り下さい。なお会報への提言（400字程度）・協会への希望は住所のみ、無記名でも結構です。
- ①、②どちらも原稿の返却はいたしませんのでご了承下さい。

*広島オーストリア協会でお預かりしている、会員の皆様の個人情報につきましては、広島オーストリア協会の運営に関する利用に利用致しません。

広島オーストリア協会主催 恒例クラシックコンサート

「日墳修交140年 日本オーストリア交流年2009」を記念して2回開催

第1弾

ウィーン交響楽団 トロンボーン四重奏団

～弦楽四重奏の芸術性を管楽器にもたらした驚くべきカルテット～

2009年9月18日(金)19時開演

広島ALSOKホール

S席 5,000円(オーストリア協会会員価格 4,000円)

A席 3,500円(オーストリア協会会員価格 3,000円)

B席 2,500円

※6歳未満のお子さまの入場はご遠慮ください。

ウィーン交響楽団 トロンボーン四重奏団

トロンボーンを、室内楽を奏でる楽器として聴衆に親しみを持ってもらい、質の高い音楽を提供することを目的に、1992年、オーストリアのトップ・オーケストラの奏者たちによって設立された。2005年のメンバー変更を経て、今は全員が名門ウィーン交響楽団のメンバーで構成され、極めて高い演奏水準と、その驚くほどバランスのとれた演奏により、唯一無二の室内楽団として世界各地で絶賛を浴びている。

プログラムは、「クラシカル・ステージ」(バッハ・ブルッ



クナー・R. シュトラウスなどの作品)、「エンターテインメント・ステージ」(J. シュトラウス・バーンスタインなどの作品ほか)の2部構成を予定。

第2弾

“ウィーンを奏でる” 近藤嘉宏ピアノリサイタル

2009年12月12日(土)14時開演

広島国際会議場フェニックスホール

S席 3,500円(オーストリア協会会員価格 3,000円)

A席 2,500円(オーストリア協会会員価格 2,000円)

※6歳未満のお子さまの入場はご遠慮ください。

近藤嘉宏

1987年日本音楽コンクール第2位。国際コンクールでの受賞などを経て、1995年に国内デビューし、日本を代表するピアニストとして第一線で活躍。大阪フェスティバルホールでの17回に及ぶリサイタルやショパン没後150周年のツアーは絶賛を博し、驚異的な観客動員数を記録。海外のオーケストラや指揮者との共演も多く、更なる飛躍が期待される。

担当者より

その実直かつ情熱的な演奏で聴く者を魅了する近藤嘉宏。広島でも過去、10年続けてリサイタルを開き、毎回聴衆を魅了してやまないピアニストです。この度はオーストリア協会主催の公演ということで、特別なプログラム構成を企画しています。祈りにも似た静かなフレーズ、溢れるロマンティズム、疾走するメッセージ…!! この冬、皆さまの心を熱くするピアノ演奏にご期待下さい!!!

